

広報 たなべ

ともに歩こう。次の1000年へ。

8

2026

No.255



特集

全国大会へ この街の高校生が挑む舞台

地域の代表として全国大会に出場する高校生たち。その挑戦の背中には、地域の応援と支えがあります。本特集では、選手たちの想いと日々の努力を紹介します。

INDEX

デジタル広報紙「マイ広報紙」を開始しました / 2026 夏の観燈祭 / 【秋試験】田辺市
職員採用試験 / たなべ住人十彩「みんなが寄り合い、みんなで作る居場所」
杉本 正樹さん 明子さん（龍神村安井） / たなべすてき写真館

いざ、全国大会へ

勝利をめざして努力する日々、仲間と支え合う時間、壁を乗り越えてきた経験。

部活動には、多くの学びが詰まっています。全国大会である全国高等学校総合体育大会への出場を決めた市内の選手たちは、どのような思いで競技に向き合っているのでしょうか。

全国高等学校総合体育大会（インターハイ）は、陸上競技などの各競技の全国大会です。インターハイとして実施される大会のうち、最も多くの競技種目がある「総体」は、約30競技が実施され、高校生のスポーツ実践の機会を提供し、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とします。

今年の総体は、「つなげみんなの想い 輝け近畿の舞台で」をスローガンに、滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の近畿6府県と北海道・福島県が会場となり、「夢へ躍進 青春の夏 近畿総体2026」として実施されます。



詳しくはこちら▼



市内高校の近畿総体への出場競技一覧

競技	出場校	開催期間	開催場所
カヌー	・ 神島高等学校 カヌー部 ・ 田辺工業高等学校 カヌー部	7月31日(金) ～8月4日(火)	兵庫県立円山川公苑周辺水域 (兵庫県豊岡市小島 1163)
弓道	・ 神島高等学校 弓道部 ・ 田辺工業高等学校 弓道部	8月1日(水)～4日(土)	田辺スポーツパーク体育館 (上の山一丁目 23-1-1)
少林寺拳法	・ 神島高等学校 少林寺拳法部 ・ 田辺高等学校 少林寺拳法部	7月31日(金) ～8月2日(日)	和歌山県立橋本体育館 (橋本市北馬場 455)
アーチェリー	・ 神島高等学校 アーチェリー部	8月3日(月)～5日(水)	ヤンマースタジアム長居 (大阪府大阪市東住吉区長居公園 1-1) 他
体操 (体操競技)	・ 田辺工業高等学校 体操部	7月30日(木) ～8月2日(日)	神戸総合運動公園 グリーンアリーナ神戸 (兵庫県神戸市須磨区緑台)
ホッケー (女子の部)	・ 田辺高等学校 ホッケー部	8月7日(金)～12日(水)	県民共済ドーム長浜 (滋賀県長浜市田村町 1320) 他
登山	・ 田辺高等学校 ワンダーフォーゲル部 (男子)	8月6日(木)～10日(月)	氷ノ山 (兵庫県養父市大屋町横行) 鉢伏山 (兵庫県美方郡香美町村岡区大笹) 蘇武岳 (兵庫県豊岡市日高町羽尻)

田辺高等学校 ホッケー部



11人の選手が、1つのボールに思いを込め仲間へのパスをつなぎ、ゴールをめざすホッケー競技。全国大会出場の際には選手たちの努力と、勝利への熱い思いがありました。



支えてくれた人々に 捧げる勝利

にし わかな
西 和奏さん (3年生)



いつも通りの 自分たちの力を

やまもと あやか
山本 彩香さん (3年生)

ホッケーは、母が経験者だったことがきっかけで始めました。母から「インターハイに連れて行ってほしい」と言われていたので、その願いを叶えることができ、とてもうれしいです。

キャプテンとして、自分の指示一つひとつが勝敗に関わってきます。的確な指示をしながらプレーすることは大変ですが、自分たちが積み重ねてきたものを信じ、インターハイでの一勝をめざします。

これまでたくさん遠征や試合に行かせていただき、多くの方々に支えていただけてきたと感じます。特に、母にはインターハイで勝つ姿を見せてあげたいです。

私のポジションは「スーパー」という守りの要です。「スーパー」は1番後ろでプレーをするので、全体を見渡すことができます。そのため、他の選手が見えない部分も見ることができ、私の声掛けは、試合を優位に進める上で重要だと思っています。考えることがとても多く、プレッシャーも感じるポジションですが、大変さを感じたことはありません。

練習中は、実際の試合で生かせるように、試合の場面を想像しながらプレーすることを心掛けています。

目標は、まず一勝。ミスをせず、自分たちの力を出し切れるように頑張りたいです。

“勝利”の裏にある見えない努力



田辺高等学校
ホッケー部顧問
しみず ひろき
清水 大貴さん

本校では、高校生から競技を始める生徒が多い中、3年生として最後の大会を迎えるまで、2年余りの限られた時間しかありません。また、昨年度13人いた3年生が抜け、今年度の3年生と2年生は4人ずつという状況の中で、全国への切符を掴んだこと、これはすごいことです。

2月の大会時点では、正直ボロボロで、余程頑張らなければインターハイは無理だと感じていました。選手達は、通常の練習に加え、朝早くから夜遅くまで自主練習に励み、体力面・精神面ともにレベルアップしました。指導者があまり干渉しない方が自分たちのペースでできる部分もあるかと思ひ、影ながら見守っていました。

全国ではほとんどのチームに小学校からの経験者がいます。そんな困難な中でも努力を惜しまなかった選手たちは、立派に戦えると思ひ、応援してください。是非、応援してください。



田辺工業高等学校 体操部

力強さとしなやかさ、美しさが求められる体操競技。一つひとつの演技に磨き上げてきた技術と集中力を込め、選手たちは大会に臨みます。目標に向かって積み重ねてきた努力や、競技を通じて得た学びなどを聞きました。

自分と向き合って 前よりも成長した 自分に

こんおか ひろあ
紺岡 博吾さん (2年生)

「100回やれば100 回できる」 積み重ねが大事

たちばな れい
橘 玲依さん (3年生)

県1位で予選を通過することができたことで、自分の成長と手応えを感じています。

現在はあん馬^ばで新しい技を取り入れるために練習を重ねており、全国大会までに一つひとつの演技の完成度を高めていきたいと思っています。

中学生の頃には、師事していた先生が辞められ、苦しい時期もありました。それでも、次に先生と会った時に恥ずかしい選手にはなりたくないという思いが支えとなり、競技を続けることができました。

もともと焦りやすい性格ですが、その気持ちとどう向き合うかを課題として取り組んできたことが、今の結果につながっていると感じています。

体操を辞めようと思った時期もありましたが、そのたびに支えてくれた家族には感謝の気持ちしかありません。全国大会では、支えてくださった方々への感謝が伝わるような演技をしたいと思っています。

インターハイ出場が決まった瞬間は、率直にうれしかったです。大会期間中には部員のけがもありましたが、限られたメンバーの中で全員が力を合わせて戦い、団体で全国への切符をつかみ取ることができました。

体操は技だけでなく、つま先や指先、演技前の立ち姿勢まで評価される競技です。そのため、練習では「通し込み」と呼ばれる演技の反復を何度も繰り返し、練度と自信を高めることが、本番で力を発揮するために欠かせません。

両親には、これまで練習や大会の送迎など、数えきれないほど支えてもらい、また、チームメイトも落ち込んでいる時に励ましてくれる大切な存在で、お互いに支え合いながらここまで歩んできました。

高校生活最後の大会。今できる演技の完成度をさらに高め、自分らしい演技をすることが、これまで支えてくれた方々への恩返しになると信じています。

生徒自身が考え、成長できる場所に

生徒達の指導の中で意識しているのは、「やらせる練習」ではなく、「考える練習」です。選手、指導者両方の経験から、競技力だけでなく精神的にも強い選手は、自ら課題を見つけ、目的を持って練習に取り組める傾向があると感じています。そのため冬場には、生徒一人ひとりに自分の目標や課題を設定してもらい、生徒の意思を尊重した練習を心掛けています。指導者の指示待ちではなく、自分で考えながら成長していくことを大切にしています。

体操は個人競技という側面がありますが、練習環境の整備など、多くの人に支えられていることを忘れず、感謝の気持ちを持ってほしいと伝えています。

インターハイでは、何よりもけがなく無事に大会を終え、成績よりも全員の舞台で、自分たちらしい演技を見せてくれることに期待しています。



田辺工業高等学校
体操部顧問
すずき たかひこ
鈴木 孝彦さん



課題へ向き合い 続けた日々 結果で証明したい

みやもと おとや
宮本 音哉さん (3年生)

今年は、少林寺拳法競技が地元和歌山で開催される特別な大会だからこそ、「必ず全国大会に出場したい」という強い思いを持って練習に取り組んできました。

これまでの大会では自分が思い描いていたような成績が残せず、気持ちや技術面でも、全国の選手との差があると感じていました。だからこそ、負けた時にはその悔しさから目を背けず、自分の現在地を見つめ直し、「今の自分に何が足りないのか」を考え、その課題に正面から向き合いながら練習を重ねてきました。

これまでを振り返ると、決して順風満帆だったわけではありません。むしろ、うまくいかないことの方が多かったように思います。これまでご指導いただいた先生方や支えてくれた仲間、家族に対して、「教えてもらったことは間違っていなかった」と結果で示したいと思っています。それが私なりの恩返しです。

悔しさを 自分自身の 成長の糧に

たけもと ほづみ
竹本 歩積さん (3年生)

今回のインターハイ出場で何よりうれしいのは、3年生全員で全国大会に出場できることです。入学した時から、このメンバーで地元開催の全国大会に出場することを目標に取り組んできたので、その目標を達成できたことに大きな喜びを感じています。

1年生の時の県大会では、団体演武のメンバーに自分だけ選ばれず、当時はとても悔しい思いをしました。その経験が大きな転機になり、「引退するまでには誰よりも上手くなろう」と気持ちを切り替え、それ以来、自分にできる努力を積み重ねてきました。

少林寺拳法には「人づくりの行^{ぎょう}」という考え方があるように、私自身、競技を通じて体力や技術が向上しただけでなく、自分のことは自分とするなど日々の行動にもつながっていると思います。私たちにとっての最後の大会なので、優勝をめざしていきたいです。



神島高等学校 少林寺拳法部

技術だけでなく、礼儀や思いやりの心も大切にする少林寺拳法。競技に向き合い、全国に懸けてきた思い、部活動を通じて培った力などを伺いました。



神島高等学校
少林寺拳法部顧問
きたがわ まさや
北川 真也さん

堂々と、すべてを出し切ってもらいたい

私が生徒たちに繰り返し伝えていた言葉の一つに、「^{きやうかしのこ}脚下照顧」があります。自分の足元を見つめ、自らの行動を振り返るという意味です。自分たちで考え、判断し、行動する大切さを説いてきました。

生徒たちは厳しい練習を仲間とともに乗り越える文化を先輩から受け継ぎ、その積み重ねが今のチームの強さにつながっていると感じています。

また、高校生活の中で何か一つでも本気でやり切った経験は、将来必ず心の支えになります。勝敗だけでは測れない価値が、そこにはあると思っています。

生徒たちは大きな大会になればなるほど堂々とした姿を見せてくれます。それは、指導者として誇らしい瞬間です。一人でも多くの生徒が最終日まで勝ち進み、演武を披露してくれることを願っています。

部活動は、技術や記録を追い求める場であると同時に、仲間と支え合い、挑戦する心を育む場でもあります。選手たちの言葉からは、勝敗だけではない多くの学びや成長が伝わってきました。そうした学びは、私たち

の生活においても大事な考えになるのではないのでしょうか。日々の努力の積み重ねが大舞台への挑戦につながっています。今後も夢や目標に向かって歩み続ける選手たちの活躍に期待します。